

令和6年度地域防災力充実強化会議（10学区）

連携団体

自治連合会、防災士会、まちづくり協議会、消防団、防災士、支所職員、保育園、幼稚園、小学校、中学校、警察機関、自主防犯委員会、民生委員・児童委員会協議会、社会福祉協議会、スポーツ振興会、老人クラブ連合、防犯推進会、診療所、交通安全支部、子供会、健康推進会、交通安全支部

検討事項

- ・消防団から自主防災会への情報共有をする。
- ・自主防災会と消防団との連絡をもっと密にしていくことが今後の課題である。
- ・すでに決まっている学区における防災体制や災害時の行動について、知らない自治会長や防災士に周知する。
- ・連携強化会議の参加団体、自主防災会役員や防災士がLINE登録し情報を受発信する。
- ・教育機関（中学校、小学校、幼稚園、保育園）の連絡網を活用した緊急避難情報の発信。
- ・学区における危険個所を共有し危険個所の点検・街歩きを実施し地区防災計画に反映する。
- ・何百人も自治会員がいるのに数名しか訓練参加者がいない。
- ・学区の防災訓練時に分団車の乗車体験を盛り込み親子連れの参加者を促す。
- ・防災訓練の案内チラシを学区内の全戸に配布する。
- ・学区訓練の前に、防災士に事前学習及び訓練を実施する。
- ・学区規模が小さければ災害時に消防団の協力を得られないことが予想できるので平時から防災士が主体となり訓練を進めて行く。
- ・自治会訓練をブロック単位で実施し隣近所の関係から出席を促す。
- ・自治会訓練に子供が参加できるような内容を取入れ参加率の向上と自治会加入を勧誘する。
- ・災害時の携帯無線の活用方法を周知する。
- ・衛星電話の活用を検討する。
- ・学区として避難所運営訓練をすることが最善であり、まずはHUG訓練をやる。
- ・災害時の地域の中の企業や農協など様々な繋がりを強化する。
- ・学区独自の防災計画を作成する。
- ・今後は防災士が中心となって消火器の使い方などの説明の役割を担ってもらう。

設定目標

- ・ 双方への理解を十分に深め自主防災会と消防団との連絡を密にすることが今後の課題。
- ・ まずは自主防災会と消防団で話を進め、その後地域の各団体を巻き込んで防災力向上に進める。
- ・ 地域連携強化会議に自主防災会と消防団以外の各種団体の協力を得る。
- ・ 学区内の地形や住民を知り防災計画に反映し実災害に備える。
- ・ 安全優先で自助、共助を行い情報共有をする。
- ・ 学区として避難所運営訓練をすることが最善であり、まずはHUG訓練をやる。
- ・ 学区防災訓練について防災士が主となり訓練指導を行う。

